



Cisco Unified Mobility

- [Cisco Unified Mobility の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility の前提条件 \(4 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility の設定タスク フロー \(5 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility コール フロー \(34 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility の連携動作 \(35 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility の制限 \(37 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Mobility のトラブルシューティング \(42 ページ\)](#)

Cisco Unified Mobility の概要

Cisco Unified Mobility が提供する一連のモビリティ関連機能を使用すると、どこからでも、どのデバイスを使用していても、Unified Communications アプリケーションを操作できます。ホーム オフィスの電話機、Wi-Fi 接続のデュアルモード Cisco Jabber クライアント (iPhone または Android)、別の移動体通信事業者の携帯電話のいずれでも、Unified Communications の機能にアクセスし、社内でコールをアンカーできます。

たとえば、設定済みの電話機からエンタープライズ番号に転送されたコールに応答し、さらにそのコールを携帯電話に転送できます。これにより、オフィスから移動する際にも進行中の会話を継続できます。

Cisco Unified Mobility のメリット

ほとんどのモビリティ機能には社内の通話 アンカリングが備わっています。モバイル デバイスで通話が発信/着信する場合でも、その通話はエンタープライズゲートウェイ経由でルーティングされます。

これには次の利点があります。

- 使用しているデバイスや、オフィス内またはオフィス外のどこにいるかに関係なく、1 つのエンタープライズ電話番号とボイスメールですべてのビジネスコールに対応します。
- ビジネスコールをモバイルデバイスに転送し、オフィスの電話を使っているかのようにそのコールを続けることができます。

- モバイルデバイスから発信された通話はエンタープライズにアンカーされ、エンタープライズゲートウェイ経由でルーティングされます。これにより UC の通話中機能、集中型請求方式、通話詳細レコードを利用できるため、高価な携帯電話ネットワークを回避することでコストを削減できる可能性があります。
- ネットワーク間でローミングでき、コールはドロップされません。

モビリティ機能

Cisco Unified Mobilityには、次のモビリティ関連の機能が用意されています。

モビリティ機能	説明
シングルナンバーリーチ	この機能では1つの企業電話番号とボイスメールがユーザに付与されます。これにより、ユーザがオフィス内外などのどこにいても着信できます。ユーザの企業電話番号に電話がくると、デスクフォンまたは設定されているリモート接続先（ホームオフィスの電話機、iPhone または Android のデュアルモードの Cisco Jabber クライアント、他のプロバイダーの携帯電話）で応答できます。
携帯電話に移動	<p>Cisco IP 電話の [モビリティ (Mobility)] ソフトキーを押すことで、デスクフォンからのアクティブなコールを、リモートの接続先として設定されているモバイルデバイスに転送することができます。この機能は、Remote Destination の設定の一部として [シングルナンバーリーチ (Single Number Reach)] に関連付けられています。</p> <p>[モバイルへ移動 (Move to Mobile)] オプションに似ているオプションとして [デスクピックアップ (Desk Pickup)] があります。これは、たとえばモバイルコールで通話中にオフィスに到着したという状況に適しています。モバイルデバイスで通話を切断した後、[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] タイマーが期限切れになる前に（デフォルトは 10 秒）デスクフォンをピックアップすると、通話を速やかに再開できます。このオプションは、[シングルナンバーリーチ (Single Number Reach)] 設定の一部として有効となります。</p> <p>(注) また、リモート接続先とデスクフォンの間で通話を転送するには、Enterprise Feature Access コードと Session Handoff コードも使用できます。</p>

モビリティ機能	説明
モバイルボイスアクセス	<p>この機能により、リモートの電話機から通話を発信し、通話を企業内にアンカーして、着信側に対してはオフィスの電話から通話しているかのように示されます。この機能を使用する場合は、モバイルデバイスからシステム IVR にダイヤルインする必要があります。システムで発信者の認証が完了し、プロンプトに応じてコール先を入力した後は、エンタープライズ電話から発信しているかのようにコールが発信されます。</p> <p>また、[モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] プロンプトを使用して、リモート接続先の [シングルナンバーリーチ (Single Number Reach)] を有効または無効にできます。</p>
エンタープライズ機能アクセス	<p>この機能では、設定済みのリモート接続先から2段階ダイヤリングを実行でき、着信側に対してはデスクフォンから通話が発信されたかのように示されます。[モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] とは異なり、[エンタープライズ機能アクセス (Enterprise Feature Access)] を使用するには、設定されているリモート接続先からダイヤルする必要があります。</p> <p>また [エンタープライズ機能アクセス (Enterprise Feature Access)] では、リモート接続先からのコールで通話中に通話中機能を利用できます。通話中機能にアクセスするには、各種機能（保留、独占保留、転送など）のコードを表す DTMF 保留中、排他的保留、転送などのさまざまな機能のコードを表す DTMF デジットを送信します。</p>
インテリジェントセッション制御	<p>この機能では、企業からリモート接続先の番号に直接発信された通話（たとえば、企業からリモート接続先として設定されている携帯電話へ発信された通話など）の自動コールアンカリングが有効になります。サービスパラメータを設定することで、このようなコールを関連付けられているエンタープライズ番号に自動的にリダイレクトできます。これによりコストが削減され、UC 機能が追加されます。</p>

モビリティ機能	説明
デュアルモード電話	<p>iPhone および Android の Cisco Jabber クライアントは、デュアルモードデバイスとしてプロビジョニングできます。デュアルモード電話には、Wi-Fi または携帯電話ネットワーク経由で接続する機能があります。クライアントがエンタープライズネットワーク内にある場合、Cisco Jabber は Wi-Fi 経由で Unified Communications Manager に登録でき、UC の通話機能とインスタントメッセージ機能を利用できます。モバイルデバイスの電話番号を使用してモバイル ID を設定すると、エンタープライズネットワークを離れるときに Jabber から携帯電話にコールを転送できます。</p> <p>(注) Cisco Jabber モバイル クライアントで使用できる別の機能は、モバイルおよびリモートアクセスです。この機能により、Cisco Jabber クライアントがエンタープライズネットワーク外部にある場合にデータネットワークに接続できます。詳細については、『Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「モバイルおよびリモートアクセスの設定」を参照してください。</p>

Cisco Unified Mobility の前提条件

次の前提条件を参照してください。

- モビリティ機能を有効にするには、ダイヤルプランとコールルーティングの設定によって展開ニーズを満たせるように、適切な計画を策定する必要があります。詳細については、『[Cisco Collaboration System Solution Reference ネットワーク設計ガイド](#)』の「モバイルコラボレーション」項を参照してください。
- モビリティ機能をサポートする Cisco IP 電話の詳細については、[電話機能一覧の生成](#)を参照してください。
 - モビリティソフトキーをサポートしている Cisco IP Phone をリストするには、**モビリティ機能**のレポートを実行します。
 - サポートされているデュアルモード電話をリストするには、**デュアルモード機能**のレポートを実行します。
- [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)] を展開して、追加のロケールをシステムで使用可能にする場合 (英語以外の電話ロケールまたは国特有のトーンを使用する場合)、[cisco.com](#) からロケールインストーラをダウンロードし、Cisco Unified OS Administration インターフェイスを介して、インストールします。ロケールのインストールに関する詳細は、『[Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service インストールガイド](#)』を参照してください。

- セルフプロビジョニングを設定します。これにより電話ユーザは各自の Cisco Jabber クライアントとリモート接続先をプロビジョニングできます。詳細に関しては、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』の「セルフプロビジョニングの設定」および「エンドユーザのプロビジョニング」の項を参照してください。



注意

シスコモビリティソリューションは、シスコ機器でのみ検証されています。このソリューションは他のサードパーティ製 PSTN ゲートウェイとセッション ボーダー コントローラ (SBC) でも機能しますが、各機能はここで説明するように機能しない可能性があります。サードパーティ製 PSTN ゲートウェイまたは SBC でこのソリューションを使用している場合、シスコテクニカル サポートが発生した問題を解決できない可能性があります。

Cisco Unified Mobility の設定タスク フロー

展開環境向けにモビリティ機能を設定するには、次のタスクをすべて行います。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • モビリティ ユーザの設定 (6 ページ) • 一括管理を使用したモビリティ ユーザの設定 (7 ページ) • LDAP を使用したモビリティ ユーザのプロビジョニング (8 ページ) 	<p>個々のエンドユーザにモビリティ機能を追加します。</p> <p>多数の既存のエンドユーザに対してモビリティ機能を設定するには、一括管理ツールを使用します。</p> <p>モビリティ機能で新しいユーザをプロビジョニングするには、feature group テンプレートと LDAP 同期を使用できます。</p>
ステップ 2	IP フォンのモビリティの設定 (9 ページ)	<p>シングルナンバーリーチ (SNR) や Move to Mobile 機能の設定を含むモビリティに対して、Cisco IP 電話を設定します。これにより、エンタープライズ電話を使用するユーザは、エンタープライズコールをさまざまなモバイル デバイス (ホームオフィスの電話や携帯電話など) へ転送できます。</p>
ステップ 3	モバイル ボイス アクセスの設定 (16 ページ)	<p>オプションシステムに IVR が備わっているため、モバイルユーザは、どのモバイルデバイスからでもコールができ、着信側に対しては、発信側が会社のデスク</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		クフォンからダイヤルしているかのように示されます。
ステップ 4	エンタープライズ機能アクセスの設定 (24 ページ)	オプション この機能では、設定済みのリモート接続先から2段階ダイヤリングを実行でき、着信側に対してはデスクフォンから通話が発信されたかのように示されます。また、この機能ではリモート接続先からのコールで通話しているときに通話中機能を利用できます。
ステップ 5	インテリジェントセッションコントロールの設定 (25 ページ)	関連付けられているエンタープライズが使用可能な場合に、リモート接続先への着信コールがその番号に再ルーティングされるように、システムを設定します。これにより、社内でモビリティコールのための自動コールアンカリングが実現し、その結果コストを削減し、Unified Communications 機能がさらに追加されます。
ステップ 6	モビリティ サービス パラメータの設定 (26 ページ)	オプション Cisco Unified Mobility の動作を変更するには、オプションのモビリティ関連サービス パラメータを設定します。
ステップ 7	Cisco Jabber デュアルモードの設定 (27 ページ)	Cisco Jabber でモビリティを設定することで、ユーザは自分のスマートフォンの Jabber クライアントでエンタープライズ通信機能にアクセスできます。
ステップ 8	その他のデュアルモードデバイスの設定 (28 ページ)	その他のデュアルモードデバイス (Wi-Fi 経由で接続できる FMC または IMS クライアントなど) を展開する場合には、このタスク フローに従います。

モビリティ ユーザの設定

モビリティ機能のエンド ユーザを設定します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[**ユーザ管理 (User Management)**] > [**エンドユーザ (End User)**]
- ステップ 2** [**ユーザの検索と一覧 (Find and List Users)**] ウィンドウで、次のタスクのいずれかを実行します。
- [**検索 (Find)**] をクリックし、既存ユーザを選択すると設定を修正できます。
 - 新しいユーザを設定するには、[**新規追加 (Add New)**] をクリックします。
- ステップ 3** 以下のフィールドに値を設定します。
- **ユーザ ID (User ID)**
 - **姓 (Last Name)**
- ステップ 4** [**モビリティ情報 (Mobility Information)**] セクションで、次のフィールドを入力します。
- a) [**モビリティの有効化 (Enable Mobility)**] チェックボックスをオンにします。
 - b) **オプション** このユーザがモバイル ボイス アクセスを使用できるようにするには、[**モバイル ボイス アクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)**] チェックボックスをオンにします。
 - c) [**デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)**] フィールドにミリ秒単位の値を入力します。このタイマーは、リモート接続先から通話を切った後にユーザがデスクフォンからコールを再開できる期間を表します。
 - d) [**リモート接続先制限 (Remote Destination Limit)**] フィールドには、各ユーザがシングルナンバー リーチ (SNR) の対象にできるリモート接続先の数を入力します。
- ステップ 5** [**エンドユーザの設定 (End User Configuration)**] ウィンドウでその他のフィールドに入力します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 6** [**保存 (Save)**] をクリックします。
-

一括管理を使用したモビリティ ユーザの設定

[一括管理 (Bulk Administration)] の [**ユーザの更新 (Update Users)**] メニューを使用して [モビリティ (Mobility)] 機能を既存のエンドユーザに一括に追加するには、次の手順に従います。



- (注) [一括管理 (Bulk Administration)] には、既存のユーザを一括で更新するためのその他の機能があります。たとえば、エクスポート機能とインポート機能を使用して、新しいモビリティ設定で CSV ファイルをインポートできます。詳細については、[Cisco Unified Communications Manager 一括アドミニストレーションガイド](#)を参照してください。
-

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [クエリー (Query)]
- ステップ 2** フィルタを適用し、[検索 (Find)] をクリックし、モビリティ ユーザとして割り当てるユーザを選択します。
- ステップ 3** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [モビリティ情報 (Mobility Information)] で次の 4 つのフィールドを編集します。最初に左端にあるチェックボックスをオンにしてこのフィールドを更新することを示し、次に右側で次のように設定を行います。
- [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] : このテンプレートでプロビジョニングしたユーザに対しモビリティ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
 - [モバイル ボイス アクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] : プロビジョニング済みのユーザがモバイル ボイス アクセスを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
 - [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] : このフィールドは、携帯電話でコールを中断した時点からデスクフォンでコールを再開するまでの許容時間を表します。
 - [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)] : このフィールドは、このテンプレートを使用してプロビジョニングされたユーザに対して割り当てることができるリモート接続先またはモバイル ID の数を表します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] の下の [今すぐ実行 (Run Immediately)] をオンにします。
- ステップ 6** [Submit] をクリックします。`
-

LDAP を使用したモビリティ ユーザのプロビジョニング

LDAP ディレクトリをまだ同期していない場合は、この手順に従い、機能グループテンプレート設定を使って同期済みエンド ユーザにモビリティ機能を設定できます。新たに同期されたユーザは、テンプレートからモビリティ設定を引き継ぎます。



- (注) この手法は、LDAP ディレクトリをまだ同期していない場合にのみ有効です。初回同期の実行後には、新しい機能グループテンプレート設定を LDAP ディレクトリ同期に割り当てることはできません。
-

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ/電話/追加 (User/Phone/Add)] > [機能グループテンプレート (Feature Group Template)]。

ステップ 2 [機能グループテンプレートの検索と一覧 (Find and List Feature Group Templates)] ウィンドウで、次のいずれかの手順を実行します。

- [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいテンプレートを設定します。
- [検索 (Find)] をクリックして、設定する既存のテンプレートを選択します。

ステップ 3 テンプレートに名前を割り当てます。

ステップ 4 次のモビリティ フィールドを設定します。

- [モビリティの有効化 (Enable Mobility)] : このテンプレートでプロビジョニングしたユーザに対しモビリティ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
- [モバイル ボイス アクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] : プロビジョニング済みのユーザがモバイル ボイス アクセスを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
- [デスク ピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] : このフィールドは、携帯電話でコールを中断した時点からデスクフォンでコールを再開するまでの許容時間をミリ秒単位で表します。
- [リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)] : このフィールドは、このテンプレートを使用してプロビジョニングされたユーザに対して割り当てることができるリモート接続先またはモバイル ID の数を表します。

ステップ 5 [機能グループ テンプレートの設定 (Feature Group Template Configuration)] ウィンドウのその他のフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

- (注) 設定した機能グループ テンプレートを、まだ同期されていない LDAP ディレクトリに割り当てます。新たに同期したユーザではモビリティが有効になっています。詳細に関しては、『『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』』の「エンドユーザのプロビジョニング」の章を参照してください。

IP フォンのモビリティの設定

Cisco IP Phone でモビリティ機能を設定するには、次のタスクをすべて行います。これには、シングルナンバー リーチ (SNR) および携帯電話に移動機能の設定が含まれます。これにより、ユーザのすべてのデバイス呼び出す1つのエンタープライズ番号が割り当てられます。また、どのデバイスが着信してもアクセスできるエンタープライズレベルのボイスメールも割

り当てられます。さらに、ユーザはデスクフォンとモバイルデバイスの間でアクティブなコールを転送することもできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	モビリティ用のソフトキーテンプレートの設定 (10 ページ)	モビリティ ソフトキーを含む Cisco IP 電話のモビリティ ソフトキー テンプレートを設定します。ユーザはソフトキーを押すだけでデスクフォンから携帯電話にコールを転送できます。
ステップ 2	IP フォンのモビリティの設定 (12 ページ)	モビリティに対して IP 電話を設定すると、エンタープライズ番号への着信コールをリモート接続先に転送できるようにします。
ステップ 3	リモート接続先プロファイルの設定 (13 ページ)	すべてのユーザのリモート接続先番号に適用する共通設定を構成します。
ステップ 4	リモート接続先の設定 (14 ページ)	ユーザがアクセスできるモバイル デバイス (ホーム オフィスの電話機や携帯電話ネットワークの携帯電話など) が表示される仮想デバイスであるリモート接続先を設定します。リモート接続先の多くの設定は、ユーザのデスクフォンと同じです。
ステップ 5	アクセス リストの設定 (15 ページ)	オプションでのコールがどのリモート接続先をどの時間に呼び出すかを制御します。アクセス リストによって発信者 ID に基づいて発信者をフィルタリングでき、さらにリモート接続先の呼び出しスケジュール中にその発信者からのコールを許可またはブロックできます。

モビリティ用のソフトキーテンプレートの設定

モビリティ ソフトキーを含むソフトキーテンプレートを設定するには、次の手順に従います。このテンプレートを使用しているすべての電話機でソフトキーが有効になります。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイスの設定 (Device Settings)] > [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]。

[ソフトキー テンプレートの設定 (Softkey Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 新しいソフトキーテンプレートを作成するには、次の手順に従います。それ以外の場合は、次のステップに進みます。

- a) **[新規追加 (Add New)]** をクリックします。
- b) デフォルトのテンプレートを選択して、**[コピー (Copy)]** をクリックします。
- c) **[ソフトキー テンプレート名 (Softkey Template Name)]** フィールドに、テンプレートの新しい名前を入力します。
- d) **[保存 (Save)]** をクリックします。

ステップ 3 既存のテンプレートにモビリティ ソフトキーを追加します。

- a) 検索条件を入力して **[検索 (Find)]** をクリックします。
- b) 既存のテンプレートを選択します。

ステップ 4 (任意) このソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定するには、**[デフォルト ソフトキー テンプレート (Default Softkey Template)]** チェックボックスをオンにします。

(注) あるソフトキー テンプレートをデフォルトのソフトキー テンプレートとして指定した場合、先にデフォルトの指定を解除してからでないと、そのテンプレートは削除することができません。

ステップ 5 **[保存 (Save)]** をクリックします。

ステップ 6 **[関連リンク (Related Links)]** ドロップダウン リストから **[ソフトキー レイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)]** を選択し、**[移動 (Go)]** をクリックします。

ステップ 7 **[設定するコール状態の選択 (Select a Call State to Configure)]** ドロップダウン リストから、ソフトキーを追加するコール状態を選択します。通常、コール状態 **[オンフック (OnHook)]** と **[接続中 (Connected)]** の両方にソフトキーを追加します。

ステップ 8 **[選択されていないソフトキー (Unselected Softkeys)]** リストから **モビリティ ソフトキー** を選択し、右矢印を使用して **[選択されたソフトキー (Selected Softkeys)]** リストにソフトキーを移動します。新しいソフトキーの位置を変更するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 9 追加のコール状態のソフトキーを表示するには、上記のステップを繰り返します。

ステップ 10 **[保存 (Save)]** をクリックします。

(注) 新しいソフトキー テンプレートを作成した場合は、**[電話の設定 (Phone Configuration)]** ウィンドウでテンプレートを1台の電話に割り当てるか、**[一括管理 (Bulk Administration)]** の **[電話の更新 (Update Phones)]** でテンプレートを電話機グループに割り当てることができます。

プロビジョニング中にソフトキーテンプレートを電話機に割り当てる方法は多数あります。たとえば、**ユニバーサル デバイス テンプレート** の設定を使用する方法や、特定モデルのデフォルト デバイス プロファイルとして割り当てる方法などがあります。

機能管理ポリシーでのモビリティの有効化

機能管理ポリシーで Cisco IP Phone の機能を有効または無効にするように設定済みの場合は、それに加えて、Cisco IP Phone が使用するポリシーでモビリティを有効にする必要もあります。電話が使用する機能管理ポリシー設定でこの機能を無効にすると、そのポリシーを使用するすべての Cisco IP Phone でモビリティ ソフトキーが無効になります。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、該当するポリシーを選択します。

(注) 他の関連機能とともにモビリティを有効にするために電話機に割り当てる新しい機能管理ポリシーを作成する必要がある場合は、[新規追加 (Add New)] を選択できます。[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで電話機にポリシーを割り当てるか、または [共通の電話プロファイルの設定 (Common Phone Profile Configuration)] で一連の電話にポリシーを割り当てることができます。また、universal device テンプレートにポリシーを割り当てて、プロビジョニング時に電話機にそのポリシーを割り当てることもできます。

ステップ 3 [名前 (Name)] フィールドに機能管理ポリシーの名前を入力します。この名前には、最長 50 文字の英数字を指定でき、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。各機能管理ポリシー名がシステムに固有の名前であることを確認します。

ステップ 4 [説明 (Description)] フィールドに、この機能管理ポリシーの説明を入力します。この説明には、最長 50 文字の英数字を指定でき、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) を任意に組み合わせて含めることが可能です。

ステップ 5 [機能制御セクション (Feature Control Section)] で、[モビリティ (Mobility)] ソフトキーに対応する [デフォルトをオーバーライド (Override Default)] チェックボックスおよび [設定の有効化 (Enable Setting)] チェックボックスの両方をオンにします。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

IP フォンのモビリティの設定

シングルナンバー リーチまたは携帯電話への移動を設定済みの場合は、次の手順に従ってデスクフォンでモビリティ機能を設定すると、エンタープライズコールをリモート接続先にリダイレクトできるようになります。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2 次のいずれかの作業を実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存の電話を選択すると設定を修正できます。
 - 新しい電話を追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックして、[電話のタイプ (Phone Type)] ドロップダウン リストから電話を選択します。
- ステップ 3 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [ソフトキー テンプレート (SoftKey Template)] ドロップダウン リストから、設定したモビリティ ソフトキー テンプレートを選択します。
- ステップ 5 [所有者のユーザ ID (Owner User ID)] ドロップダウン リストから、モビリティを有効にしたユーザ アカウントを選択します。
- ステップ 6 (任意) [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を使用して機能を有効にする場合は、ドロップダウン リストからポリシーを選択します。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

リモート接続先プロファイルの設定

すべてのユーザのリモート接続先番号に適用する共通設定を構成します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [デバイス プロファイル (Device Profile)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 プロファイルの名前を入力します。
- ステップ 4 [ユーザ ID (User ID)] ドロップダウン リストで、このプロファイルを適用するエンドユーザを選択します。
- ステップ 5 [デバイス プール (Device Pool)] ドロップダウン リストから、このプロファイルを含めるデバイス プールを選択します。
- ステップ 6 [リモート接続先プロファイルの設定 (Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 8 [関連付け情報 (Association Information)] の下にある、[新規 DN を追加 (Add a New DN)] をクリックします。

- ステップ 9** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、ユーザのデスクの電話の電話番号を追加します。

リモート接続先の設定

リモート接続先とは、ユーザに到達できるモバイルデバイスを表します（ホーム オフィスの電話、携帯電話ネットワークの携帯電話、PSTN 電話など）。リモート接続先の多くの設定は、ユーザのデスク フォンと同じです。



- (注)
1. 企業ユーザがリモート接続先から Cisco Jabber へのコールを開始すると、Unified Communications Manager は、INVITE メッセージを Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) に送信することにより、Cisco Jabber とのデータ コールの確立を試行します。コールは VCS から応答を受信するかどうかに関係なく確立されます。
 2. セルフプロビジョニングが有効になっている場合は、エンドユーザがセルフ ケア ポータルで各自の電話をプロビジョニングできます。セルフプロビジョニングのシステム設定に関する詳細は、『[『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』](#)』および「セルフ プロビジョニング設定」章を、ユーザ プロファイルの一部としてのユーザに対するセルフ プロビジョニングを有効にする詳細に関しては、「エンドユーザのプロビジョニング」のパートを参照してください。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)]。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [着信先 (Destination)] フィールドにリモート接続先の番号を入力します。たとえば、携帯電話番号または PSTN 番号を入力できます。
- ステップ 4** [モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] フィールドで、このリモート接続先を使用するモビリティ対応エンドユーザを選択します。
- ステップ 5** [Unified Mobility 機能を有効にする (Enable Unified Mobility features)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [リモート接続先プロファイルサービス (Remote Destination Profile Service)] ドロップダウンリストから、このリモート接続先を所有するユーザに対して設定するプロファイルを選択します。
- ステップ 7** [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストからボイスメール ポリシーを設定します。
- a) [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストからボイスメール ポリシーを設定します。

- b) [シングルナンバー リーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 8** [携帯電話に移動 (Move to Mobile)] チェックボックスをオンにして、ユーザがデスクフォンで**モビリティ** ソフトキーを押したときに表示される選択可能な接続先の一覧に、このリモート接続先を追加します。
- ステップ 9** (任意) このリモート接続先へのエンタープライズ コールを特定の日 (営業日など) に限定するには、[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] を設定します。
- ステップ 10** [上記の呼び出しスケジュール中に着信がある場合 (When receiving a call during the above ring schedule)] 領域で、このリモート接続先に設定されたリストを適用します。
- ステップ 11** [リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ウィンドウでその他のフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 12** [保存 (Save)] をクリックします。

アクセス リストの設定

アクセスリストはオプションのリモート接続先設定であり、どのコールがどのリモート接続先をどの時間に呼び出すことができるかを制御したい場合に利用できます。アクセスリストでは発信者 ID に基づいて発信者をフィルタリングでき、さらにリモート接続先の呼び出しスケジュール中にコールを許可またはブロックできます。



(注) 電話ユーザは、セルフ ケア ポータルで各自のアクセス リストを設定できます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [コントロールのクラス (Class of Control)] > [アクセス リスト (Access List)]。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックして、新しいアクセス リストを作成します。
- ステップ 3** 新しいアクセス リストを指定するには、名前と説明を入力します。
- ステップ 4** [オーナー (Owner)] ドロップダウン リストから ID を選択し、ユーザにアクセス リストを関連付けます。
- ステップ 5** 次のいずれかのオプションを選択します。
- [許可 (Allowed)] : アクセス リストのすべての番号が許可されます。
 - [ブロック済み (Blocked)] : アクセス リストのすべての番号がブロックされます。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** [フィルタ マスク (FilterMask)] ドロップダウン リストから、アクセス リストに適用するフィルタを選択します。

- [使用不可 (Not Available)] : 使用不可のステータスをアドバタイズするすべての発信者がアクセス リストに追加されます。
- [非公開 (Private)] : 非公開のステータスをアドバタイズするすべての発信者がアクセス リストに追加されます。
- [ディレクトリ番号 (Directory Number)] : 指定したすべての電話番号またはディレクトリ文字列がアクセス リストに追加されます。このオプションを選択すると、[DN マスク (DN Mask)] フィールドのすべての番号または番号文字列が追加されます。

ステップ 8 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 9 リモート接続先にアクセス リストを適用します。

- [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] を選択して、作成したリモート接続先を再度開きます。
- このアクセス リストの呼び出しスケジュールを設定し、次のいずれかを実行します。
 - 許可アクセス リストを作成したら、発信者が [発信者が次のアクセスリストに登録されている場合のみ、この接続先を呼び出す (Ring this destination only if caller is in)] ラジオ ボタンをクリックして、ドロップダウン リストから作成したアクセス リストを選択します。
 - 拒否アクセス リストを作成したら、発信者が [発信者が次のアクセスリストに登録されている場合は、この接続先を呼び出さない (Do not ring this destination if caller is in)] ラジオ ボタンをクリックして、ドロップダウン リストから作成したアクセス リストを選択します。
- [保存 (Save)] をクリックします。

モバイル ボイス アクセスの設定

システムでモバイル ボイス アクセスを設定するには、次のタスクをすべて行います。モバイル ボイス アクセスにより、ユーザはどのデバイスからでもエンタープライズアンカー コールを発信できます。ユーザがシステム IVR にダイヤルして認証された後、コールがエンタープライズコールとして発信され、エンドユーザに対してはこのコールがオフィスの電話から発信されたかのように表示されます。

始める前に

モバイル ボイス アクセスを使用するには :

- [エンドユーザの設定 (Configuration)] で [モバイル ボイス アクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] をオンにして、ユーザをモビリティ ユーザとして有効にしておく必要があります。詳細については、[モビリティ ユーザの設定 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- 音声自動応答サービスがアクティブであること、およびトランクで使用されるメディアリソース グループ リストにそれが含まれていることが必要です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Unified Mobile Voice Access Service の有効化 (18 ページ)	Cisco Unified Serviceability で、Cisco Unified モバイル ボイス アクセス機能 サービスがアクティブになっていることを確認します。
ステップ 2	モバイルボイスアクセスの有効化 (18 ページ)	モバイルボイスアクセス (MVA) を有効にし、ユーザが会社アクセスのためにダイヤルする電話番号を指定します。
ステップ 3	モバイルボイスアクセスの電話番号の設定 (19 ページ)	社外からダイヤルインするユーザに対して限られたプロンプトを指定するには、モバイルボイスアクセス (MVA) を設定します。
ステップ 4	Cisco CallManager サービスの再起動 (19 ページ)	モバイルボイスアクセス機能をアクティブにした後は、Cisco CallManager サービスを再起動します。
ステップ 5	次のいずれかのタスクを実行して、ゲートウェイにレガシー MVA またはエンタープライズ機能アクセス (EFA) を設定 <ul style="list-style-type: none"> • 既存の H.323 または SIP ゲートウェイのシステムリモートアクセスの設定 (20 ページ) • 新規 H.323 ゲートウェイのリモートアクセス用設定 (22 ページ) 	<p>(注) モバイルボイスアクセスではゲートウェイの設定が必須ではなくなりました。これは、ISR G2 ルータ経由でのレガシーモバイルボイスアクセスを設定する場合だけのオプション設定です。</p> <p>システム要件に基づいて、MVA または EFA を経由して社外からのコールを処理できるように新しいゲートウェイを追加または既存ゲートウェイを設定できます。</p> <p>システムの既存の H.323 または SIP PSTN ゲートウェイがあれば、MVA をこれに設定できます。この機能には、H.323 または SIP VoiceXML (VXML) ゲートウェイで応答および処理されるシステム設定の DID 番号を呼び出すことによってアクセスします。ゲートウェイを設定すると、MVA ユーザに再生される自動音声応答 (IVR) のプロンプトをプルするためにパブリッシュャノードの vxml スクリプトが使用されます。これらのプロ</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>ンプトは、ユーザ認証とユーザが自分の電話のキーパッドでダイヤルする必要がある番号の入力を要求します。</p> <p>既存の H.323 または SIP PSTN ゲートウェイがなく、モバイルボイスアクセスを設定する場合は、新しい H.323 ゲートウェイを追加し、ヘアピンングメソッドを使用した MVA 機能を設定する必要があります。技術的な視点では、このメソッドは着信コールを受信する 2 番目のゲートウェイを使用して MVA サービスを適用し、システムが MVA サービスを適用したあとに着信コールレグが PSTN ゲートウェイ（元の送信元）に戻します。</p>

Cisco Unified Mobile Voice Access Service の有効化

パブリッシャ ノードでこのサービスをアクティベートします。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified 有用性 (Cisco Unified Serviceability)] から、以下を選択します。 [Tools (ツール)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)]
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 4 [CM サービス (CM Services)] で、[Cisco Unified Mobile Voice Access Service] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

モバイルボイスアクセスの有効化

サービスパラメータを設定すると、モバイルボイスアクセス (MVA) を有効にし、ユーザが IVR にアクセスするためにダイヤルするディレクトリ番号または PSTN DID 番号を指定することができます。

始める前に

モバイルボイスアクセスが機能するためには、Cisco Unified Mobile Voice Access 機能サービスがアクティブになっている必要があります。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 次のサービス パラメータを設定します。
 - [モバイル ボイス アクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)] サービス パラメータを [はい (True)] に設定します。
 - [モバイル ボイス アクセス番号 (Mobile Voice Access Number)] : エンタープライズにアクセスするときにユーザがダイヤルするアクセス番号を入力します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定

社外からダイヤルインするユーザに対して限られたプロンプトを指定するには、モバイル ボイス アクセス (MVA) を設定します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[メディア リソース (Media Resources)] > [モバイル ボイス アクセス (Mobile Voice Access)]。
- ステップ 2 [モバイル ボイス アクセスの電話番号 (Mobile Voice Access Directory Number)] に、ゲートウェイからのモバイル ボイス アクセス コールを受信する内部電話番号 (DN) を入力します。
長さに 1 ~ 24 桁の値を入力します。有効な値は 0 ~ 9 です。
- ステップ 3 [ローカリゼーション (Localization)] ペインで矢印を使用して、選択するロケールをこのペインとの間で移動します。

(注) モバイル ボイス アクセスでは、[モバイル ボイス アクセス (Mobile Voice Access)] ウィンドウの [選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに表示されている最初のロケールが使用されます。たとえば、[選択済みのロケール (Selected Locales)] ペインに、最初に [English United States] と表示された場合、通話中に IVR が使用されていると、Cisco Unified Mobility ユーザは英語が聞こえます。
- ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco CallManager サービスの再起動

モバイルボイスアクセス機能を有効にした後は、Cisco CallManager サービスを再起動します。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified 有用性 (Cisco Unified Serviceability)] から、以下を選択します。 [ツール (Tools)] > [コントロール センター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)]
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager パブリック ノードを選択します。
- ステップ 3** [CM サービス (CM Services)] で、**Cisco CallManager** サービスに対応するラジオボタンを選択します。
- ステップ 4** [再起動 (Restart)] をクリックします。
-

次のタスク

Unified Communications Manager でモバイル ボイス アクセスのネイティブ サポートを設定するために必要なタスクがすべて完了しました。ただし、ISR G2 ルータによって IVR プロンプトと音声プロンプトが提供されるレガシー モバイル ボイス アクセスを設定するには、以下の 2 つのオプションのタスクを実行できます。

- [既存の H.323 または SIP ゲートウェイのシステム リモート アクセスの設定 \(20 ページ\)](#)
- [新規 H.323 ゲートウェイのリモート アクセス用設定 \(22 ページ\)](#)

既存の H.323 または SIP ゲートウェイのシステム リモート アクセスの設定

システムの既存の H.323 または SIP PSTN ゲートウェイがあれば、MVA をこれに設定できます。この機能には、H.323 または SIP VoiceXML (VXML) ゲートウェイで応答および処理されるシステム設定の DID 番号を呼び出すことによってアクセスします。ゲートウェイを設定すると、MVA ユーザに再生される自動音声応答 (IVR) のプロンプトをプルするためにパブリック ノードの vxml スクリプトが使用されます。これらのプロンプトは、ユーザ認証とユーザが自分の電話のキーパッドでダイヤルする必要がある番号の入力を要求します。

始める前に

[モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定 \(19 ページ\)](#)

手順

-
- ステップ 1** PSTN から PRI の T1/E1 コントローラを設定します。

例 :

```
controller T1 1/0
framing esf
linecode b8zs
pri-group timeslots 1-24
```

- ステップ 2** PRI (T1/E1) のシリアル インターフェイスを設定します。

例 :

```
interface Serial 1/0:23
ip address none
logging event link-status none
isdn switch-type primary 4ess
isdn incoming-voice voice
isdn bchan-number-order ascending
no cdp enable
```

ステップ 3 パブリッシャ ノードから VXML アプリケーションをロードします。

例 :

IOS バージョン 12.3(13) 以降の設定例

```
application service CCM
http://<Unified CM Publisher IP Addr>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml
```

例 :

IOS バージョン 12.3 (12) 以前の設定例 :

```
call application voice Unified CCM
http://<Unified CM Publisher IP Addr>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml
```

注意 VXML は、バージョン 12.2(11) で追加されましたが、12.3(8)、12.3(9)、12.3(14)T1 および 12.2(15) などのバージョンでも VXML は配信されています。

ステップ 4 Cisco Unified Mobility アプリケーションをシステム リモート アクセスと関連付けるように、ダイヤル ピアを設定します。

例 :

IOS 12.3 (13) およびそれ以降の設定例 :

```
dial-peer voice 58888 pots
service CCM (Cisco Unified Mobility VXML application)
incoming called-number 58888
```

例 :

IOS 12.3 (12) およびそれ以前の設定例 :

```
dial-peer voice 100 pots
application CCM (Cisco Unified Mobility VXML application)
incoming called-number 58888
```

(58888 は、モバイル ボイス アクセス (MVA) の番号を示しています)

ステップ 5 MVA DN にコールを転送するためにダイヤル ピアを追加します。

例 :

プライマリ Unified Communications Manager の設定例 :

```
dial-peer voice 101 voip
preference 1
destination-pattern <Mobile Voice Access DN>
session target ipv4:10.1.30.3
codec g711ulaw
dtmf-relay h245-alphanumeric
no vad
```

例：

セカンダリ Unified Communications Manager の設定例（必要な場合）：

```
dial-peer voice 102 voip
preference 2
destination-pattern <Mobile Voice Access DN>
session target ipv4:10.1.30.4
codec g711ulaw
dtmf-relay h245-alphanumeric
no vad
```

(注) コールを終了するための汎用ダイヤル ピアがすでに設定されており、MVA DN と一致している場合は、この手順を実行する必要はありません。

例：

SIP ゲートウェイ VoIP ダイヤル ピアの設定例

```
dial-peer voice 80 voip
destination-pattern <Mobile Voice Access DN>
rtp payload-type nse 99
session protocol sipv2
session target ipv4:10.194.107.80
incoming called-number .T
dtmf-relay rtp-nte
codec g711ulaw
```

新規 H.323 ゲートウェイのリモート アクセス用設定

既存の H.323 または SIP PSTN ゲートウェイがなく、モバイル ボイス アクセスを設定する場合は、新しい H.323 ゲートウェイを追加し、ヘアピンング メソッドを使用した MVA 機能を設定する必要があります。技術的な視点では、このメソッドは着信コールを受信する2番目のゲートウェイを使用して MVA サービスを適用し、システムが MVA サービスを適用したあとに着信コール レッグが PSTN ゲートウェイ（元の送信元）に返します。



(注) ヘアピンングを使用したモバイル ボイス アクセスの場合、システムを呼び出しているユーザは発信者 ID によって自動的に特定されません。代わりに、ユーザは PIN を入力する前にリモート接続先番号を手動で入力する必要があります。その理由は、PSTN ゲートウェイは、ヘアピンングされたモバイル ボイス アクセス ゲートウェイに到達するために、まず Unified Communications Manager への通話をルーティングする必要があるためです。このルートパスのため、携帯電話の番号からエンタープライズディレクトリ番号への発信者番号の変換は、モバイル ボイス アクセス ゲートウェイが通話を処理する前に行われます。その結果、このゲートウェイでは、発信者番号と設定されているリモート接続先の照合を行うことができず、そのためユーザはリモート接続先番号の入力を求められます。

始める前に

[モバイル ボイス アクセスの電話番号の設定 \(19 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 パブリッシャ ノードから VXML アプリケーションをロードします。

例 :

IOS バージョン 12.3(13) 以降の設定例

```
application service CCM
http://<Unified CM Publisher IP Addr>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml
```

例 :

IOS バージョン 12.3 (12) 以前の設定例 :

```
call application voice CCM
http://<Unified CM Publisher IP Addr>:8080/ccmivr/pages/IVRMainpage.vxml
```

注意 バージョン 12.2(11) で VXML が追加されましたが、12.3(8)、12.3(9)、12.3(14)T1、および 12.2(15) などのその他のバージョンでは VXML の問題があります。

ステップ 2 Cisco Unified Mobility アプリケーションをシステム リモート アクセスと関連付けるように、ダイヤル ピアを設定します。

例 :

IOS 12.3 (13) およびそれ以降の設定例 :

```
dial-peer voice 1234567 voip
service CCM
incoming called-number 1234567
codec g711u
session target ipv4:<ip_address of call manager>
```

例 :

IOS 12.3 (12) およびそれ以前の設定例 :

```
dial-peer voice 1234567 voip
application CCM
incoming called-number 1234567
codec g711u
session target ipv4:<ip_address of call manager>
```

ステップ 3 通話を モバイル ボイス アクセス (MVA) DN に転送するため、ダイヤルピアを追加します。

例 :

プライマリ Unified Communications Manager の設定例 :

```
dial-peer voice 101 voip
preference 1
destination-pattern <Mobile Voice Access DN>
session target ipv4:10.1.30.3
voice-class h323 1
codec g711ulaw
dtmf-relay h245-alphanumeric
novad
```

例 :

セカンダリ Unified Communications Manager の設定例 (必要な場合) :

```
dial-peer voice 102 voip
preference 2
destination-pattern <Mobile Voice Access DN>
session target ipv4:10.1.30.4
voice-class h323 1
codec g711ulaw
dtmf-relay h245-alphanumeric
novad
```

(注) コールを終了するための汎用ダイヤル ピアがすでに設定されており、MVA DN と一致している場合は、この手順を実行する必要はありません。

ステップ 4 ヘアピンを設定します。

```
voice service voip
allow-connections h323 to h323
```

ステップ 5 Unified Communications Manager に、vxml スクリプトがロードされている H.323 ゲートウェイに着信 MVA 番号をリダイレクトするためのルートパターンを新規に作成します。新しいルートパターンを作成したパーティションにゲートウェイの着信 CSS がアクセスできることを確認してください。

エンタープライズ機能アクセスの設定

次の目的でリモート接続先からエンタープライズ機能アクセスを使用できます。

- 設定されているリモート接続先からエンタープライズコールを発信する2段階ダイヤリング。着信側に対しては、関連付けられているデスクフォンからコールが発信されたかのように示されます。
- リモート接続先は通話中機能にアクセスするときに EFA コードを使用します。このコードは、リモート接続先から DTMF デジットを使用して送信されます。



(注) モバイルボイスアクセスとは異なり、エンタープライズ機能アクセスでは、設定済みのリモート接続先からコールする必要があります。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [エンタープライズ機能アクセス番号設定 (Enterprise Feature Access Number Configuration)]。
- ステップ 2** [番号 (Number)] フィールドに、モバイル ユーザがエンタープライズ機能アクセス機能を使用するためにリモート接続先からダイヤルする一意の DID 番号を入力します。
- ステップ 3** [ルート パーティション (Route Partition)] ドロップダウン リストから、DID が含まれているパーティションを選択します。

ステップ 4 (任意) この EFA 番号を、このシステムのデフォルトにする場合は、[デフォルトのエンタープライズ機能アクセス番号 (Default Enterprise Feature Access Number)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 6 エンタープライズ機能アクセスのサービス パラメータを設定します。

- a) [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)]
- b) [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシュャ ノードを選択します。
- c) [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- d) [エンタープライズ機能アクセスの有効化 (Enable Enterprise Feature Access)] サービス パラメータを [はい (True)] に設定します。
- e) (任意) [クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))] 領域で、エンタープライズ機能アクセスで通話中機能にアクセスするために入力する必要がある DTMF デジットを編集します。たとえば、[エンタープライズ機能アクセスコード (Enterprise Feature Access Code for Hold)] サービス パラメータ (デフォルト値: *81) を編集できます。デフォルト値は次のとおりです。
 - 保留: *81
 - 特別な保留: *82
 - 再開: *83
 - 転送: *84
 - 会議: *85
 - セッション ハンドオフ: *74
 - 選択的な録音の開始: *86
 - 選択的な録音の停止: *87
 - [ハント グループ ログイン (Hunt group login)]: 新しいコードを入力します。
 - [ハント グループ ログアウト (Hunt group logout)]: 新しいコードを入力します。
- f) [保存 (Save)] をクリックします。

インテリジェントセッションコントロールの設定

関連付けられているエンタープライズ番号が使用可能な場合に、リモート接続先への着信コールがその番号に再ルーティングされるように、システムを設定します。これにより、社内でモビリティコールのための自動コールアンカリングが実現し、その結果コストを削減し、Unified Communications 機能がさらに追加されます。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[システム (System)] > サービスパラメータ (Service Parameters)。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、Cisco Unified Communications Manager ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (機能-エンタープライズ番号へのリモート接続先コールの再ルーティング) (Clusterwide Parameters (Feature - Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number))] で次のサービスパラメータを設定します。
- [エンタープライズ番号へのリモート接続先コールの再ルーティング (Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number)] : インテリジェントセッションコントロールを有効にするには、このパラメータを [True] に設定します。
 - [すべての共有電話の呼び出し (Ring All Share Lines)] : オプション。パラメータの値を [はい (True)] に設定します。インテリジェントセッションコントロールが有効で、しかもこのサービスパラメータが有効な場合、システムは、社内のリモート接続先にコールをアンカーし、ユーザのすべての共有電話を呼び出します。
 - [社内 DN ですべての不在転送を無視 (Ignore Call Forward All on Enterprise DN)] : オプション。このパラメータは、インテリジェントセッションコントロールが有効な場合にリモート接続先への発信コールにのみ適用されます。デフォルトでは、このパラメータは [True] に設定されています。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。
-

モビリティ サービス パラメータの設定

オプションのモビリティ関連サービスパラメータを設定するには、次の手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)]。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャ ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco CallManager] を選択します。
- ステップ 4 編集するサービスパラメータを設定します。モビリティ関連パラメータは次の見出しの下にリストされています。ヘルプを参照するには、パラメータ名をクリックします。
- クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))
 - クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ シングルナンバー リーチ ボイスメール) (Clusterwide Parameters (System - Mobility Single Number Reach Voicemail))

- クラスタ全体のサービス パラメータ（機能 - リモート接続先へのコールのエンタープライズ番号への再ルーティング）（Clusterwide Parameters (Feature - Reroute Remote Destination Calls to Enterprise Number)）

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Jabber デュアルモードの設定

iPhone または Android の Cisco Jabber を Wi-fi 経由で接続可能なデュアルモード モバイル デバイスとして設定するには、以下の作業を行います。Cisco Jabber は Wi-Fi 経由で Unified Communications Manager に登録され、ユーザのモバイル ID でシングルナンバー リーチが有効になっている場合はエンタープライズ番号経由で Cisco Jabber にアクセスできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	モビリティ プロファイルの設定 (28 ページ)	Dial through Office コールを発信する Jabber モバイル クライアントに対して一貫した発信者 ID が送信されるように、モビリティ プロファイルを設定します。
ステップ 2	Cisco Jabber のデュアルモード デバイスの追加 (29 ページ)	Cisco Jabber for iPhone または Android クライアントにデュアル モード デバイス タイプを設定します。
ステップ 3	モビリティ アイデンティティの設定 (32 ページ)	モビリティ ID をデバイスの電話番号（iPhone の電話番号など）をポイントする Jabber モバイル クライアントに追加することで、Jabber が Wi-Fi のカバー範囲から離れても通話できるようになります。モバイル ID でシングルナンバー リーチの接続先を有効にします。
ステップ 4	必須: ハンドオフ番号の設定 (33 ページ)	社外に移動するデュアル モード デバイスのハンドオフ番号を設定します。デバイスがエンタープライズ Wi-Fi ネットワークから切断されても、リモート モバイル ネットワークや携帯電話ネットワークに再接続し、進行中のコールを中断せずに維持できます。

その他のデュアルモード デバイスの設定

携帯電話ネットワーク経由でコールを発信でき、Wi-Fi 経由でも接続できるその他のデュアルモードモバイルデバイスを設定するには、次のタスクをすべて行います。次に例を示します。

- Fixed Mobile Convergence (FMC) ネットワーク経由で接続するキャリア統合モバイル デバイス。
- IP マルチメディア ネットワーク経由で接続する IMS 統合モバイル デバイス

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Cisco Jabber のデュアルモード デバイスの追加 (29 ページ)	IMS または FMC デュアルモード デバイスを設定します。
ステップ 2	モビリティ アイデンティティの設定 (32 ページ)	実際のデバイスの電話番号を指すモビリティ ID を追加します。
ステップ 3	必須: ハンドオフ番号の設定 (33 ページ)	社外に移動するデュアルモード デバイスのハンドオフ番号を設定します。デバイスがエンタープライズ Wi-Fi ネットワークから切断されても、リモートモバイル ネットワークや携帯電話ネットワークに再接続し、進行中のコールを中断せずに維持できます。

モビリティ プロファイルの設定

iPhone または Android のデュアルモード Cisco Jabber クライアントのモビリティ プロファイルを設定します。このプロファイルでは、Dial via Office コールのために一貫性のある発信者 ID を使用してクライアントが設定されます。



- (注) 技術的な見地から見ると、この発信者 ID は、モビリティ アイデンティティまたは別のコールバック番号へのコールの Dial via Office Reverse (DVO-R) コールバック ポーションの間に送信されます。DVO-R コール機能は、en bloc ダイアルを使用します。モビリティ ID にモビリティ プロファイルが割り当てられていない場合、または [コールバック発信者 ID (Callback Caller ID)] フィールドが空白のままである場合、システムは、デフォルトのエンタープライズ機能アクセス番号を送信します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [コール ルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティ プロファイル (Mobility Profile)]。
- ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3 プロファイルの名前を入力します。
- ステップ 4 [モバイルクライアントコールオプション (Mobile Client Calling Option)] ドロップダウンリストから、[Dial via Office リバース (Dial via Office Reverse)] を選択します。

(注) フィールドのオプションに関係なく、[Dial-via-Office 転送 (Dial via Office Forward)] は使用できません。
- ステップ 5 [Dial via Office リバース (Dial via Office Reverse)] の [コールバック発信者 ID (Callback Caller ID)] を設定します。
- ステップ 6 [モビリティプロファイルの設定 (Mobility Profile Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。 フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Jabber のデュアルモード デバイスの追加

Cisco Jabber for iPhone または Android クライアントにデュアルモードデバイス タイプを設定します。

始める前に

エンドユーザがモビリティ対応であることを確認します。また、Jabber クライアントにリモート接続先を追加する必要がある場合は、モビリティ ソフトキーを含むソフトキー テンプレートが存在することを確認します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。
- ステップ 2 次のいずれかを実行します。
 - [検索 (Find)] をクリックし、既存のデバイスを編集します。
 - 新しいデバイスを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックし、電話機モデルとして [Android 向けシスコ デュアルモード (Cisco Dual Mode for Android)] または [iPhone 向けシスコ デュアルモード (Cisco Dual Mode for iPhone)] のいずれかを選択します。 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウのフィールドを設定します。

製品固有の設定レイアウトフィールドの詳細については、<http://www.cisco.com/go/jabber> の Jabber クライアント マニュアルを参照してください。

ステップ 4 次の必須フィールドを設定します。

- デバイス名 (Device Name)
- デバイスプール (Device Pool)
- ソフトキー テンプレート (Softkey Template)
- オーナーのユーザ ID (Owner User ID) : ユーザがモビリティに対応している必要があります。
- モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID) : ユーザがモビリティに対応している必要があります。
- デバイス セキュリティ プロファイル (Device Security Profile)
- SIP プロファイル (SIP Profile)

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 6 電話番号を追加します。

- a) 左の [関連付け (Association)] エリアで、[新規 DN を追加 (Add a New DN)] をクリックします。
- b) [電話番号 (Directory Number)] に新しい番号を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- c) [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、設定したいフィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- d) [エンド ユーザの関連付け (Associate End Users)] をクリックします。
- e) [検索 (Find)] をクリックし、この DN を所有するモビリティ対応エンド ユーザを選択します。
- f) [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- g) [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

iPhone または Android の電話番号を指すモビリティ ID を追加します。これにより、Wi-Fi の範囲外へ移動した場合にコールを電話機に転送できます。また、シングルナンバー リーチの接続先としてこのデバイスを追加することもできます。詳細は、[モビリティアイデンティティの設定 \(32 ページ\)](#) を参照してください。

必要に応じて、Cisco Jabber クライアントにリモート接続先とシングルナンバー リーチを追加します。Jabber クライアントを呼び出すと、リモート接続先も呼び出されます。[リモート接続先の設定 \(14 ページ\)](#)。

デュアルモード デバイス設定フィールド

表 1: デュアルモード デバイス設定フィールド

フィールド	説明
ソフトキーテンプレート (Softkey Template)	モビリティ ソフトキー テンプレートを 選択します。
オーナーのユーザID (Owner User ID)	割り当てられた電話機ユーザのユーザ ID を選択します。ユーザ ID は、呼詳細レコード (CDR) で、このデバイスから発信されるすべてのコールに対して記録されます。
モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)	このデュアルモード フォンを割り当てるユーザのユーザ ID を選択します。
デバイスのセキュリティ プロファイル (Device Security Profile)	デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。 セキュリティ プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定したすべての電話機に適用する必要があります。電話機のセキュリティ機能を有効にするには、デバイス タイプとプロトコルに応じた新しいセキュリティ プロファイルを設定してから、電話機に適用する必要があります。
再ルーティング用コーリング サーチ スペース (Rerouting Calling Search Space)	設定されたリモート接続先にコールをルーティングするためのコールコーリング サーチ スペースと、このデバイスに対して設定されたモビリティ アイデンティティを選択します。
SIP プロファイル (SIP Profile)	[モバイル デバイスの標準 SIP プロファイル (Standard SIP Profile for Mobile Device)] を選択します。

その他のデュアルモード デバイスの追加

別のデュアルモード デバイス (ネットワークベースの FMC 用キャリア統合モバイル デバイスや IMS 統合モバイル デバイスなど) を追加するには、この手順を使用します。

始める前に

エンドユーザがモビリティ対応であることを確認します。ユーザのモビリティを有効にする方法の詳細については、この章の以前のトピックを参照してください。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。

ステップ2 [Add New] をクリックします。

ステップ3 [電話機モデル (Phone Model)] ドロップダウンから [キャリア統合モバイル デバイス (Carrier-integrated Mobile Device)] または [IMS 統合モバイル デバイス (IMS-integrated Mobile Device)] を選択します。

ステップ4 次の必須フィールドを設定します。

- デバイス名 (Device Name)
- デバイスプール (Device Pool)
- オーナーのユーザ ID (Owner User ID) : ユーザがモビリティに対応している必要があります。
- モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID) : ユーザがモビリティに対応している必要があります。

ステップ5 [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ7 電話番号を追加します。

- a) 左の [関連付け (Association)] エリアで、[新規 DN を追加 (Add a New DN)] をクリックします。
- b) [電話番号 (Directory Number)] に新しい番号を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
- c) [電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで、設定したいフィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンライン ヘルプを参照してください。
- d) [エンドユーザの関連付け] をクリックします。
- e) [検索 (Find)] をクリックし、この DN を所有するモビリティ対応エンド ユーザを選択します。
- f) [選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。
- g) [保存 (Save)] をクリックします。

モビリティ アイデンティティの設定

エンタープライズ番号で呼び出すことができるシングルナンバー リーチとしてデバイスを有効にするには、デバイスの電話番号を指すモビリティ ID を追加します。

手順

ステップ1 [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)]。

ステップ2 必要に応じて検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックして、作成したデュアルモード デバイスを選択します。

- ステップ 3** [新規モビリティ アイデンティティの追加 (Add New Mobility Identity)] をクリックします。
- ステップ 4** [着信先 (Destination)] フィールドにモバイル デバイスの電話番号を入力します。たとえば iPhone の Cisco Jabber クライアントの場合、これは iPhone の電話番号です。
- ステップ 5** Cisco Jabber のみ。設定した**モビリティ プロファイル**を選択します。
- ステップ 6** このモバイル ID をエンタープライズ電話番号から使用できるようにするには、次の手順に従います。
- [シングルナンバー リーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスをオンにします。
 - [シングルナンバー リーチ ボイスメール (Single Number Reach Voicemail)] ポリシーを設定します。
- ステップ 7** [Dial-via-Office リバース ボイス メール (Dial-via-Office Reverse Voicemail)] ポリシーを設定します。
- ステップ 8** [モビリティ アイデンティティの設定 (Mobility Identity Configuration)] ウィンドウで各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 9** [保存 (Save)] をクリックします。
- (注) 呼び出しスケジュールとアクセス リストを適用してこのモバイル ID へのコールを特定の時間とユーザに制限するには、[アクセス リストの設定 \(15 ページ\)](#)。

ハンドオフ番号の設定

ユーザが社内から外に出る間もコールを維持するには、デュアルモード電話のハンドオフモビリティを設定します。ユーザのデバイスがエンタープライズ Wi-Fi ネットワークから切断され、モバイル音声や携帯電話ネットワークに再接続しても、進行中のコールは中断せず保持されます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified CM Administration] から、以下を選択します。[コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)]。
- ステップ 2** [ハンドオフ番号 (Handoff Number)] フィールドに、Wi-Fi とモバイル音声または携帯電話ネットワーク間のハンドオフ用のダイヤルイン方式 (DID) 番号を入力します。
- 国際エスケープ文字 (+) から始まる番号の場合は、(+) の前にバックスラッシュ (\) を付ける必要があります。例: \+15551234
- ステップ 3** [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウンリストから、ハンドオフ DID 番号が属するパーティションを選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

Cisco Unified Mobility コール フロー

この項では、一般的にシングルナンバー リーチ (SNR) として知られる Cisco Unified Mobility の着信および発信 フローに関して説明します。Unified Communications Manager は、ユーザが、デスク フォンでモバイル デバイスに通話を拡張できるよう SNR が設定されている場合、個別の通話相手番号と請求番号機能をサポートしています。

たとえば、ユーザ A が PSTN ネットワークから、電話番号が SNR に設定されているユーザ B に対してコールするとします。SIP プロファイルで **[外部プレゼンテーション名と番号の有効化 (Enable External Presentation Name and Number)]** チェックボックスがオンになっており、**[外部プレゼンテーション名と番号の表示 (Display External Presentation Name and Number)]** の値が *[True]* に設定されている場合は、Unified Communications Manager により、ユーザ B のデスク フォンと設定済みのリモート接続先デバイスの両方に FROM ヘッダーの情報が表示されます。同様に、1つのオプションが無効の場合、Unified Communications Manager により着信側デバイスに P-Asserted-Identity (PAID) ヘッダー情報が表示されます。

同様に、発信コールのシナリオでは、電話番号設定ページで外部プレゼンテーション情報を使用して設定されているユーザ B (SNRD 回線) が SIP トランク経由で PSTN ネットワークへのコールを開始します。SIP プロファイルで **[外部プレゼンテーション名と番号 (External Presentation Name and Number)]** が設定されている場合、Unified Communications Manager により外部プレゼンテーション情報が発信 SIP メッセージの FROM ヘッダーで送信され、着信側デバイスに表示されます。

[外部プレゼンテーション名と番号の有効化 (Enable External Presentation Name and Number)] チェックボックスが無効になっている場合、Unified Communications Manager によりダイレクトリ番号情報が FROM と PAID で送信され、着信側デバイスと、X-Cisco-Presentation ヘッダーで設定されている外部プレゼンテーション情報に表示されます。

[匿名の外部プレゼンテーション (Anonymous External Presentation)] チェックボックスをオンにすると、設定済みの**外部プレゼンテーション名と外部プレゼンテーション番号**が、着信側デバイスで匿名として表示されている各フィールドおよび外部プレゼンテーションから削除されます。

外部プレゼンテーション情報の設定の詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』の「ダイレクトリ番号の設定」章を参照してください。

Cisco Unified Mobility の連携動作

表 2: Cisco Unified Mobility の連携動作

機能	データのやり取り
自動コールピックアップ	<p>Cisco Unified Mobility サービスパラメータの設定内容に応じて、自動コールピックアップと連動します。[自動コールピックアップが有効 (Auto Call Pickup Enabled)] サービスパラメータが [True] に設定されている場合は、[ピックアップ (PickUp)] ソフトキーを押すだけで、コールをピックアップできます。</p> <p>このサービスパラメータが [False] に設定されている場合は、[ピックアップ (PickUp)]、[G ピック (GPickUp)]、または [他グループ (OPickUp)] ソフトキーを押してから、[応答 (Answer)] ソフトキーを押す必要があります。</p>
自動代替ルーティング	<p>Cisco Unified Mobility Automatic Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) は、現在、次のようにサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロケーションベースのサービス用の帯域幅が不足して拒否が発生した場合は、拒否によって AAR がトリガーされ、コールが PSTN 経由で再ルーティングされるため、発信者は電話を切ってリダイヤルする必要がありません。 Resource Reservation Protocol (RSVP) が原因で拒否が発生した場合は、AAR がリモート接続先へのコールに対してトリガーされず、コールが中断されます。
Extend and Connect	<p>Cisco Unified Mobility および Extend and Connect の両方の機能が必要なユーザは、両方のデバイスタイプのオーナー ID が同じ場合、同じリモート接続先にリモートデバイスプロファイルと CTI リモートデバイスタイプを設定することができます。この設定では、Cisco Unified Mobility 機能と Extend and Connect を同時に使用できます。</p> <p>詳細については、「「Extend and Connect」」の章を参照してください。</p>

機能	データのやり取り
外部コール制御	<p>外部コール制御が設定されている場合、Unified Communications Manager は、これら Cisco Unified Mobility 機能に対する付加ルート サーバからのルート判断に従います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified Mobility • モバイル ボイス アクセス • エンタープライズ機能アクセス • Dial via Office <p>Unified Communications Manager 次の Cisco Unified Mobility 機能に対してルーティング クエリを送信しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 携帯電話ピックアップ • デスク ピックアップ • セッションハンドオフ
インテリジェントセッション制御とセッションハンドオフ	<p>エンタープライズ番号に固定されたリモート接続先へのダイレクトコールの場合は、モバイル ユーザがセッションハンドオフ機能を使用してデスクフォンへコールをハンドオフできます。</p> <p>インテリジェントセッション制御を実装する前に、Cisco Unified Mobility を有効にする必要があります。</p>
移行が可能	<p>Cisco Unified Mobility ベーシックからプロフェッショナルまでのすべてのユーザベースのライセンスに含まれています。</p>
ローカルルートグループ (Local Route Groups)	<p>リモート接続先に対するシングルナンバー リーチ コールの場合は、発信側のデバイス プールによって標準のローカルルート グループの選択が決定されます。</p> <p>(注) BiB (ビルトインブリッジ) との AgentGreeting が呼び出される場合は、ローカルルート グループはサポートされません。</p>

機能	データのやり取り
サポートされるコールの数	<p>リモート接続先ごとに最大 6 つのアクティブ コールがサポートされます。しかし、サポートされているコールの数は、Cisco Unified Communications Manager の設定によって異なります。</p> <p>たとえば、リモート接続先向けの 6 つのアクティブ コールの使用中、または、ユーザが DTMF を使用してリモート接続先からのコールを転送中または会議中でも、Cisco Unified Mobility ユーザは、コールを受信します。</p> <p>次の場合に、受信したコールがエンタープライズ ボイスメールに送信されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザが使用中のコール数が Busy トリガー設定を超えている • CFB が設定されている • すべての共有電話がビジー <p>(注) エンタープライズ ボイスメールに送信されるコールは、サポートされている最大のコールに基づいていません。</p>
Cisco Unified Border Element を使用した SIP トランク	Cisco Unified Mobility Cisco Unified Border Element (CUBE) を利用することにより、SIP トランクでコール中機能のない Cisco Unified Mobility 機能をサポートします。

Cisco Unified Mobility の制限

表 3: Cisco Unified Mobility の連携動作

制約事項	説明
自動応答	自動応答が有効になっているとリモート接続先のコールは機能しません。

制約事項	説明
未登録時コール転送	<p>iPhone および Android の Cisco Jabber では未登録時コール転送（CFUR）は次のようにサポートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • iPhone および Android の Cisco Jabber でモバイル ID とリモート接続先のどちらも設定されていない場合は、CFUR がサポートされます。 • リモート接続先が設定されている場合は CFUR がサポートされず、機能しません。 • 携帯電話番号を使ってモバイル ID が設定されており、シングルナンバーリーチが有効な場合、CFUR はサポートされず、機能しません。 <p>モバイル ID またはリモート接続先が設定されている場合は、代わりに話中転送または応答時転送を使用してください。</p>
コールキューイング	<p>Unified Communications Manager Cisco Unified Mobility によるコールキューイングはサポートされていません。</p>
会議	<p>ユーザはモバイル ボイス アクセスを使用し、会議コントローラとしてミーティングを開始できませんが、ミーティングに参加することはできます。</p> <p>既存の会議コールが共有回線の IP フォンやデュアルモード電話、またはリモート接続先であるスマートフォンから開始された場合、コールが携帯電話に送信された後またはデュアルモードのハンドオフの操作が発生した後は、新規で会議の参加者を追加することはできません。</p> <p>新規の会議参加者の追加を許可するには、[高度なアドホック会議有効化（Advanced Ad Hoc Conference Enabled）] サービス パラメータを使用します。詳細については、「関連項目」を参照してください。</p>
携帯電話からの+文字のダイヤル	<p>ユーザは携帯電話のデュアルトーン多重周波数（DTMF）を使用して+記号をダイヤルし、国際番号用エスケープ文字を指定できます。</p> <p>Cisco Unified Mobility ディレクトリ番号に+文字が含まれるエンタープライズ IP フォンに携帯電話から発信するための、IVR の DTMF を使用した+のダイヤリングはサポートされていません。</p> <p>Cisco Unified Mobility では、携帯電話からディレクトリ番号に+文字を含む企業の IP Phone にコールを発信するために、2段階ダイヤリング用の DTMF を使用して+をダイヤルすることはサポートされていません。</p>

制約事項	説明
デスクフォンでのサイレントとリモート接続先へのダイレクトコール	<p>デスクフォンでサイレント（DND）を有効にすると、デスクフォンをリモートで使用中の状態にすることはできず、次のシナリオではコールはアンカーされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールの拒否オプションでサイレントが有効になっている。 • デスクフォンの [サイレント（DND）] ソフトキーを押してサイレントが有効化されている。 <p>ただし、呼出音オフのオプション付きで DND が有効になっている場合、コールはアンカーされます。</p>
デュアルモード電話	<p>デュアルモードハンドオフと発信者 ID</p> <p>デュアルモードハンドオフのハンドオフ DN 方法では、携帯電話ネットワークで発信者 ID が必要です。モビリティ ソフトキーの方法では、発信者 ID は必要ありません。</p> <p>デュアルモード電話と CTI アプリケーション</p> <p>デュアルモード電話が Wi-Fi エンタープライズモードのときは、どの CTI アプリケーションもコントロールやモニタリングを行いません。</p> <p>デュアルモード電話が WLAN の範囲外になると、WLAN の共有回線コールでのデュアルモード電話の [リモートで使用 (In Use Remote)] インジケータが消えます。</p> <p>デュアルモード電話と SIP 登録期間</p> <p>デュアルモード電話では、Unified Communications Manager は、SIP Station KeepAlive Interval サービスパラメータが指定する値ではなく、電話に関連付けられている SIP プロファイルの [レジスタのタイムアウト値 (秒) (Timer Register Expires (seconds))] フィールド値を使用して登録期間を判断します。モバイルデバイスの標準 SIP プロファイルは、そのプロファイルの [レジスタのタイムアウト値 (Time Register Expires)] フィールドで定義されているように登録期間を決定します。</p>
携帯電話ネットワークからのエンタープライズ機能	<p>携帯電話ネットワークからのエンタープライズ機能にはアウトオブバンド DTMF が必要です。</p> <p>クラスタ間 DN を SIP トランク（クラスタ間トランクまたはゲートウェイのいずれか）を介した IP フォンのリモート接続先として使用する場合、IP フォンの設定の際に [DTMF 受信が必要 (Require DTMF Reception)] チェックボックスをオンにします。これにより、エンタープライズ機能アクセス通話中機能に不可欠な DTMF 番号がアウトオブバンドで受信できます。</p>

制約事項	説明
ゲートウェイとポート	<p>モバイル ボイス アクセスでは H.323 ゲートウェイと SIP VoIP ゲートウェイの両方がサポートされています。</p> <p>T1 CAS、FXO、FXS、BRI では、Cisco Unified Mobility 機能はサポートされていません。</p> <p>SNR (シングルナンバー リーチ) は、MGCP (Media Gateway Controlled Protocol) ではサポートされません。</p>
Jabber デバイス	<p>初期設定すると、Jabber デバイスは登録済みデバイスとしてカウントされます。これらのデバイスは、[登録済みデバイスの最大数 (Maximum Number of Registered Devices)] サービス パラメータで設定される、ノード内の登録済みデバイスの数を増やします。</p>
ロケール	<p>Cisco Unified Mobility は、最大 9 個のロケールをサポートします。10 個以上のロケールがインストールされている場合、[使用可能なロケール (Available Locales)] ペインに表示されますが、[選択済みのロケール (Selected Locales)] のペインには 9 つまでしか保存できません。</p> <p>Cisco Unified Mobility に対して 9 個以上のロケールを設定しようとすると、「「Update failed」というメッセージが表示されます。CHECK 制約 (informix.cc_ivruserlocale_orderindex) に失敗しました (Update failed. Check constraint (informix.cc_ivruserlocale_orderindex) failed.)」</p>
デスクトップのコールピックアップの最大待機時間	<p>ユーザがリモート接続先 (スマートフォンまたは任意の他の電話のいずれか) から *81 DTMF コードを押してコールを保留にした場合、ユーザのデスク フォンには [復帰 (Resume)] ソフトキーが表示されます。ただし、デスク フォンではデスクトップのコールピックアップ用のタイマーは適用されません。エンドユーザがコールに応答するまでの時間として設定したタイムアウトが過ぎ、コールがドロップされない場合でも [復帰 (Resume)] キーは表示され続けます。</p> <p>代わりに、ユーザはリモート電話でコールを切断する必要があります。これにより、デスク フォンはデスクトップ コールピックアップのタイマーを適用し始めます (この設定を変更するには、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウの [デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)] フィールドを使用します)。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)	<p>Cisco Unified Mobility Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) とは連携されていません。コールが MLPP によってプリエンプション処理された場合は、そのコールに対する Cisco Unified Mobility 機能が無効になります。</p>
オーバーラップ送信	<p>オーバーラップ送信パターンはインテリジェント セッション制御機能ではサポートされません。</p>

制約事項	説明
Q シグナリング	モビリティではQシグナリング (QSIG) はサポートされていません。
QSIG パス置換	QSIG パス置換はサポートされていません。
サービス パラメータ	エンタープライズ機能アクセス サービス パラメータは標準の電話とスマートフォンに適用されます。ただし、一般にスマートフォンはワンタッチ キーを使用して適切なコードを送信します。Cisco Unified Mobility と共に使用するすべてのスマートフォンを、エンタープライズ機能アクセス用のデフォルトのコードまたはスマートフォンのドキュメンテーションで指定されているコードのいずれかを使用するように設定する必要があります。
セッションハンドオフ	セッションハンドオフ機能には次の制限が適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> セッションハンドオフは携帯電話からデスクフォンに対してのみ行えます。デスクフォンから携帯電話へのセッションハンドオフの場合、現在のリモート接続先のピックアップ方法の規定により、携帯電話へのコールの送信を使用する必要があります。 音声通話のセッションハンドオフのみサポートされています。
ハントグループのシングルナンバーリーチ	ハントグループが設定済みで、ハンドグループが指し示す1つ以上の電話番号でシングルナンバーリーチ (SNR) が有効な場合には、ハントグループのすべてのデバイスがログインしない限り、SNR リモート接続先にコールが転送されません。 ハントグループ内の各デバイスについて、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [ハントグループにログイン (Logged into Hunt Group)] チェックボックスをオンにする必要があります。
SIP トランク	Cisco Unified Mobility 機能は、一次群速度インターフェイス (PRI) 公衆電話交換網 (PSTN) 接続でだけサポートされます。 SIP トランクの場合、Cisco Unified Mobility は IOS ゲートウェイまたはインタークラスタ トランク経由でサポートされます。
SIP URI とリモート接続先への直接コール	インテリジェントセッション制御機能は直接の URI ダイヤリングをサポートしていません。したがって、SIP URI への発信はエンタープライズ番号にアンカーすることはできません。

制約事項	説明
Unified Communications Manager のパブリッシャ依存機能	<p>クラスタ環境では、シングルナンバーリーチを有効化または無効化するには、パブリッシャが到達可能である必要があります。パブリッシャがアクティブに実行されていない場合、一部の機能が動作しない可能性があります。</p> <p>パブリッシャノードが到達可能でない場合、モバイルボイスアクセスは利用できません。モバイルボイスアクセス用の IVR のプロンプトはパブリッシャでのみ保存されています。</p>
ビデオ コール	Cisco Unified Mobility サービスは、ビデオコールには提供されません。デスクフォンで受信したビデオコールを携帯電話で取ることはできません。
モバイルボイスアクセス (MVA)	Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータは、音声 XML (VXML) をサポートしていません。そのため、これらのルータが Cisco Unified Communications Manager を備えた Unified Communications ゲートウェイとして機能するときは、モバイルボイスアクセス (MVA) アプリケーションをサポートしません。

関連トピック

[アドホック会議のサービスパラメータ](#)

Cisco Unified Mobility のトラブルシューティング

デスクフォンでコールを再開できない

問題 リモート接続先（携帯電話）がスマートフォンではなく、この携帯電話へのコールが Cisco Unified Communications Manager を使用して固定されている場合、ユーザは、携帯電話を切り、デスクトップ電話機に **[再開 (Resume)]** ソフトキーが表示されて通話を再開できることを想定します。ユーザは、デスクトップ電話機でこのコールを再開できません。

考えられる原因 携帯電話が切れたときに、発呼側がビジー音、リオーダー音、または切断音を受信する場合、携帯電話のプロバイダーによってメディアが切断されなかった可能性があります。プロバイダーから切断信号が送信されません。この可能性を確認するため、発信側が45秒間待機するようにします。この待機時間の経過後に、サービスプロバイダーはタイムアウトになり切断信号を送信します。この時点で、Cisco Unified Communications Manager はコールを再開するための **[再開 (Resume)]** ソフトキーを提供できます。

- 次のコマンドをゲートウェイに追加します。

```
voice call disc-pi-off
```

- Cisco CallManager サービスの場合は、**[アクティブコールでPIとの切断時にメディアを維持する (Retain Media on Disconnect with PI for Active Call)]** サービスパラメータを **[いいえ (False)]** に設定します。